

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2	対象学科	健康
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
【概要・一般目標：G10】 <概要> 公衆看護学またその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。それに対して前期で学んだ統計学は、ある意味で道具である。この両者によって現在医療の現場で重視されている、EBM (Evidence-based Medicine) の基礎について修得が可能なのである。 <一般目標：G10> 証拠に基づいた医療であるEBM (Evidence-based Medicine) を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方を用いて、各種疾病の特徴を理解する。				
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. 各種疾病の原因を説明できる。 4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。 5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。				
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号 学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	疫学とは、疫学の歴史			1 講義主体
2	疾患の自然史			1,2 講義+小グループ活動
3	疫学の指標			2 講義+小グループ活動
4	疫学研究を始める前に			1 講義+小グループ活動
5	記述疫学1：疫学のモデル			1,2 講義+小グループ活動
6	記述疫学2：宿主要因1			1-5 講義+小グループ活動
7	記述疫学3：宿主要因2			1-5 講義+小グループ活動
8	記述疫学4：時間			1-5 講義+小グループ活動
9	記述疫学5：場所			1-5 講義+小グループ活動
10	生態学的研究			1-3 講義+小テスト
11	横断研究（断面調査）			1-5 講義+小テスト
12	コホート研究			1-5 講義+小テスト
13	症例-対照研究			1-5 講義+小テスト
14	スクリーニング			1-5 講義+小テスト
15	まとめ（国家試験問題の検討）			1-5 演習
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	基礎からわかる看護疫学	大木秀一	医歯薬出版株式会社	2010・2,800円+税・[2年次後期に「統計情報処理」で指定]
	保健統計テキスト	遠藤和男	考古堂	2008・2,800円+税・[3年次にも使用]
参考書				
その他の資料	参考となるURLは学内LANにアップしておく。			
【評価方法】	【履修上の留意点】			
・国家試験問題に準じる筆記テスト+課題に対するレポート (定期試験時間内に筆記できるものとする) ・出席点も考慮する。	・健康栄養学科と看護学科混成で5-6人のグループを編制する。 ・第2-9回は6グループ毎に課題を提出してもらい。コンピュータを持参のこと。 ・第10-14回は小テストを提出してもらい、第15回は過去問の演習とする。			